

**新年あけましておめでとうございます。今年も意事に新年を迎えることができました。これも皆様のおかげです。今年もどうぞよろしくお願いいたします。**

さて、新年、新しいスタート、皆さんも環境の変化などをお考えになっていることかと思えます。「今年こそ禁煙、今年はゴルフのハンデをひとランクアップするぞ、今年こそあこがれの地に足を踏み出すぞ」などと、新しい事へのチャレンジを抱いて新年を迎えた方も多いことかと思えます。さて私も新しい環境へ一歩踏み出しました。1989年から住んでいた Mons を脱出し、とうとうブラッセル住民となりました。ベルギー在住歴は長いのですが、ブラッセルでは新参者ですので、ブラッセル在住の方へ「これからご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます」と挨拶したいと思えます。実は昨年10月にブラッセルに住民票を移しました。それまでも仕事の関係上、ブラッセルに半住民として暮らしていましたが、腰を落ち着けて生活を始めると、さすがに Mons とは街の雰囲気、持ち味が違いますね。新参者から見たブラッセルの印象は。

1) 建築物がとても面白い。

街を歩いていると隣接した建築物がほとんど同じデザインでないことに気づきました。新しい建築物は超近代的なデザインで無機質な感じがします。またある意味同じようなデザインで味わいがない部分もあります。しかし古い街並みはそれぞれの建物が個性的で、建物を眺めながら散歩しても飽きることはありません。

2) 街が大きい (当たり前ですが)

Mons は一周5キロほどのリングに囲まれた街で、何でも徒歩圏内で用事が出来る街でした。しかしここブラッセルはさすがに首都だけあって街の大きさが違いますね。お気に入りのカフェを探して地下鉄やバスに乗って出かけることもありましたが、Mons では徒歩10分でグランプラスへ出かけることができ、そのカフェも地元住民のためのカフェでしたが、ブラッセルのグランプラスへは地下鉄で出かけ、しかもカフェは観光客のためのカフェでした。落ち着いて楽しめるカフェを求めて後数ヶ月はうろつこうと思えます。

2) 車の運転が違う

Mons ではへたくそながらもゆっくりとした速度での運転が多く、譲り合いの気持ちのあるドライバーが多いようでした。しかしブラッセルは「やったもん勝ち」の運転ですね。しかも運転がへたくそ。スペインやイタリアなどでハンドルを持ったことがあります。彼らは荒い運転ですが次の予想をしながら運転するドライバーが多いような気がしました。しかしブラッセルは大阪弁で言う「どんくさい」ドライバーが多いように思います。「しばいたるか！」と思う回数が増えたような気がします。

しかし心温まる街でもあるようです。幼稚園の近所の街に一件のカフェがあります。そのカフェには一匹の犬と数匹の猫がいつも戯れています。そのカフェは食事を出してくれるお店なのですが、雨に濡れると臭いがする大きな犬のいるカフェなんです。いつもはカフェの玄関前に陣取り、暑い日はカフェの奥のひんやりした場所に陣取り、常連さんにはしっぽを振って挨拶し、チーズを頼んだお客には必ずおねだりする、とても可愛い大きな犬がいます。いつも首輪もリードもなしにカフェの近所を我が物顔で歩き回っています。近所の人たちもその犬をよく知っていて、拾い食いなどマナーの悪い事をするのを戒めています。そこ街角で娘が聞いてきた話ですが。

リードや首輪も付けずに飼い主から離れて勝手気ままに犬が散歩することをこの国では認められていません。当然のようにそのカフェの飼い主にも警察官がリードと首輪をするようにと指導してきました。その話を聞いたご近所さんは「あその犬は特別だ。とても利口で優しいし、人に危害を与えるような犬じゃないことはみんな良く知っている。街のマスコットなんだ。だから今まで通りフリーで街を歩かせてあげよう」と警察に伝えたそうです。余りに警察から注意されるのなら、町内で嘆願書を書こうという話まででできたそうです。警察も粋なもので、住民からの話を聞いてからは飼い主に何も言わなくなったそうです。そして街の人たちも今まで以上にその犬に愛情を持って接しているそうです。ブラッセルという都会の中で出会った心が温まる話でした。